

凹面鏡に起因する収れん火災

概要

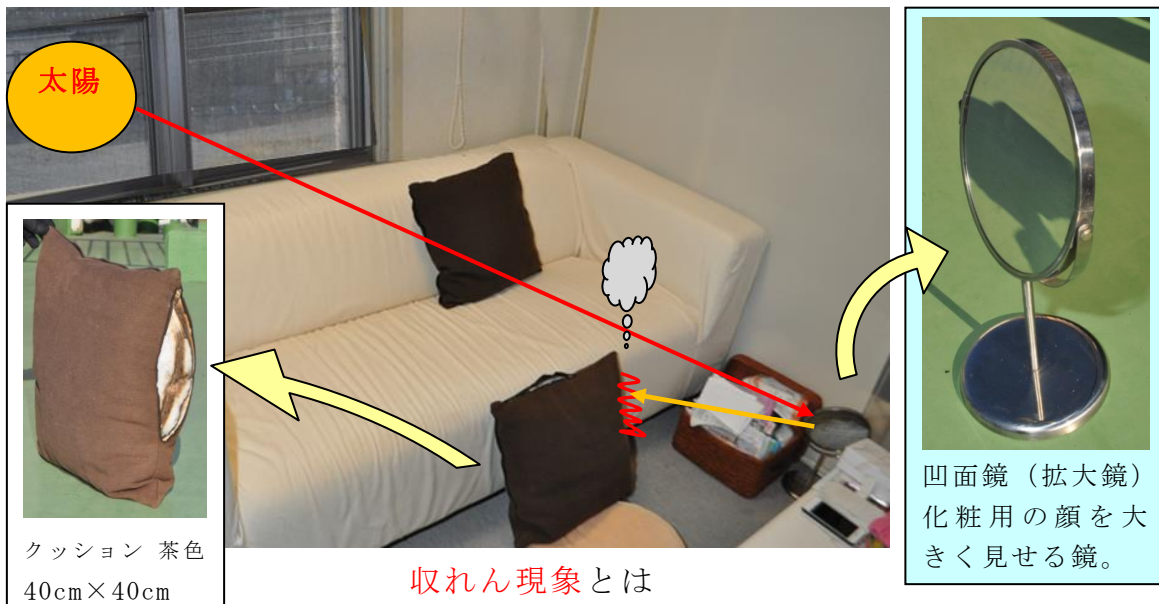
本案件は、留守中の居室内で発生したもので、居室内にはタバコ等の火災の原因になるものがなく、茶色のクッションの一部が焦げていたものです。

原因概要

南側の窓から入った太陽の光が居室内に置いていた化粧用の凹面鏡に反射し、反射した太陽の光が集まり、クッションに当たることで熱が蓄積し、クッションの一部を焦がした、収れん現象によるものと推定されます。

注意点

この事故で怖いのは火種となるものがまったくない場所で発生していることです。このように家の中には普段使用しているものが思わぬ火種になることがあります。



太陽の光が凹面鏡や凸レンズ等で反射または屈折し、一箇所に集まって熱が蓄積することで起きる現象です。

凹面鏡等による収れん現象が原因で発生した火災は全国で年間30件ほど発生しており、冬場に発生することが多いです。冬場に多い理由として、夏場比べて太陽の高度が低く、太陽の光が部屋の奥まで届くため、部屋に置いてある凹面鏡等で収れん火災が起こりやすくなっています。

収れん現象を起こしやすいもの

凹面鏡、虫めがね、老眼鏡、金魚鉢、透明の吸盤、水の入ったペットボトル、ステンレス製の調理用のボール等

類似火災を防止しよう！

収れん火災が起こりやすいものを窓際に置かないことや、家を出るときはカーテンを閉めるなど窓から入る太陽の光を遮る等して、類似火災の防止に心がけましょう。

…火災が発生した場合は、直ぐに消防(119)へ通報してください。…